

日本キリスト教会 大阪北教会

2018年3月11(日)聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ルカによる福音書23章32節～38節

32ほかにも、二人の犯罪人が、イエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。33「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。34そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのかわからないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。35民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」36兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、37言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」38イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。

説教 『父よ、かれらをお赦してください。』

◆今日の日曜学校では大人の「週報」をみんなに配って礼拝を守りました。受難節に入っ
からの週報には、毎週「十字架上の七言」を掲載しております。それを読んで、子供たちに、
「イエス様のどの御言葉が特に心に留まりますか」と質問しました。しますと5年生の男生
徒が「そんなむずかしいこと、急に聞かれても答えられへんわ」と正直に答えました。そ
で最上級生の“果歩ちゃん”を指名しますと、「4番目の、『わが神、わが神、なぜわたしを
お見捨てになったのですか』です。わたしも、どうしてこんな辛いことが起るのかと思うこ
とが何度もあるから」と答えました。質問した私の方が、しばらく次の言葉が出ないほどで
した。本当に、子供も大人も、思いがけない時に思いがけない試練に遭います。

◆今日は、あの津波の東日本大震災から7年目の記念日です。今朝も早いテレビで、記念
番組が流れて来ました。その当時13歳の中学生だった、そして今、二十歳になっている娘
さんは、あの津波でお母さんを亡くしました。それ以来「御母さんは、なぜわたしを残して
死んだのか」と、辛い思いを抱いて過ごして来ました。お母さんは看護師をされていました。
地震が起きた時、患者さんを安全な場所へ避難させました。そしてもう一度病院に戻って、
別の患者さんを助け出そうとして津波に飲まれたことを、後になって知りました。そんな事

で、長くお母さんを失った衝撃から立ち直れなかったのですが、お母さんが、弱い人に寄り添って命を失った事を思い巡らしながら、ようやく、お母さんの死を前向きに受け容れることができるようになり、今では「お母さんは、自分が生きて行く道を、身をもって示してくれた」と、弱い人に寄り添って生きる仕事をしようと、今、専門学校に通っているという事でした。本当に、人生の試練は、何時、どのように起きるか、誰も予測できません。そして、そこから脱するのにも、時間がかかりますね。

◆さて、前おきが長くなりましたが、今朝、わたしたちが拝読いたします聖書の箇所には、「十字架上の七言」の第一言が含まれています。34節です。「そのとき、イエスは言われた。『父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。』人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った」と。また今、わたしたちが開いております聖書の両頁には、第二言と第七言も記されております。第二言は43節です。「するとイエスは、『はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる』と言われた。」そして、第七言は46節です。「イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』こう言って息を引き取られた」と。

◆ところでこれらの「十字架上の七言」が、主イエス・キリストの御言葉である事を証明できる立場にいた人は一体誰でしょうか。第七言の所をもう一度読んでみます。46節と47節です。「イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。』こう言って息を引き取られた。百人隊長はこの出来事を見て、『本当に、この人は正しい人だった』言って、神を賛美した」とあります。イエス・キリストの死刑執行の責任者であった百人隊長は、『本当に、この人は正しい人だった』言って、神を賛美した」とあります。この百人隊長の言葉は、マタイによる福音書27章54節とマルコによる福音書15章39節では、「本当に、この人は神の子だった」となっています。ルカによる福音書にある「神を賛美した」との言葉はありません。いずれにせよ、「十字架上のキリストの七言」の証人として、キリストの死刑執行の責任者であった百人隊長が、一番可能性が高いと思います。「百人隊長」はローマ帝国の軍隊においてはエリートだと言われます。その百人隊長が、「本当に、この人は正しい人だった」と言い、また「本当に、この人は神の子だった」と言っているのです。百人隊長は、主イエスの十字架の様子に畏怖の念を抱いたのです。「正しい人」は「義人」という言葉で、「罪人(ざいにん)ではない」ということです。そればかりか、「本当に、この人は神の子だった」とまで言っているのです。

◆ところで『十字架上の七言』の中で、一番イエス様らしくないと思われるのは、単純に言
って、冒頭で日曜学校の様子を紹介しましたが、第四言の「わが神、わが神、なぜわたしを
お見捨てになったのですか」ではないでしょうか。この言葉は、ご存じの方が多いと思いま
すが、旧約聖書の『詩編』第22篇の冒頭の一句です。そしてこの第22篇には第23篇が
つづきます。「たといわれ、死の陰の谷を歩むとも禍いを恐れじ。汝、我と共に居ませばなり」
との一句もあります。また22篇自身の中でも、4節から6節にこうあります。「イスラエル
の賛美を受ける方。わたしたちの先祖はあなたに依り頼み、依り頼んで、救われて来た。助
けを求めて、あなたに叫び、救い出され、あなたに依り頼んで、裏切られたことはない」と。

◆私たちの人生においては、非常と思える試練も不可避です。上で紹介した東日本大震災で
お母さんを亡くした少女のように。また、今、パラリンピックが行なわれていますが、見て
いますと、片足の失った選手が、片腕を失った選手が、猛スピードで氷の山を駆け下り、金・
銀・銅の表彰を受けています。それらの選手は皆、非常な試練を越えて来た人たちですね。

◆もし、『十字架上の七言』に、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」
との第四言がなかったら、イエス様は「神の子」としては申し分がない御方であられても、「人
の子」である我々から縁遠い存在になってしまわないでしょうか。

◆私たちは、「日本キリスト教会信仰の告白」において、このように信じ、告白しています。

「我らが主と崇むる神の独子（ひとりご）イエス・キリストは、真（まこと）の神にして真
の人、永遠なる神の経綸に従ひ、人となりて人類の罪のため十字架にかかり、全き犠牲（い
けにえ）をささげて贖ひを成就し、復活して永遠の生命（いのち）の保証をあたへ、救いの
完うせらるる日まで我らのために執成し給ふ。おほよそ神の選びを受け、この救いの御業（み
わざ）を信ずる者は、キリストに在りて義と認められ、功（いさお）なくして罪の赦しを得、
神の子とせらる」と。私たちの主イエス・キリストは真の神にして真の人であられるのです。
私たち人間の不可避の苦しみを、身をもって味わい、担い、執り成して下さる御方なのです。

◆それこそ裏切ったり、裏切られたりする人間、罪がないのに罪ありと宣せられ、死刑に処
せられることもある人の苦しみ、無念さはお分かりにならない。神の子としてはご立派であ
っても、人の子としての苦しみを身に感じないような「神の子」は、私達とは無縁である
という事にならないでしょうか。しかし、聖書の諸福音書は、百人隊長の「本当にこの人は、
神の子だった」という言葉と「本当にこの人は、正しい人であった」という二通りの言葉を
記しているのです。この二通りの証言は「真の神にして真の人」なるイエス・キリストを証

ししていると思います。そのどちらが本当の百人隊長の言葉かというよりも、両方ともが百人隊長の思いを伝えていると思います。

◆話は飛躍いたしますが、想像をたくましくすれば、『十字架上の七言』の原証人と思われる「百人隊長」は、主イエス様の弟子達よりも先に、イエス・キリストを主と信じた「キリスト者」だったと言えないでしょうか。そして、聖書の福音書記者たちも、『十字架上の七言』の原証人である「百人隊長」に聞き取りをして、福音書記述の資料を得たということも、あるのではないのでしょうか。

◆それにしましても、このイエス様の「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」とのお祈りは、何と、深遠で、壮大なお祈りでしょうか。「彼ら」というのは、十字架の下にいた人たち、十字架に架けられている人たち、その他の全ての人を含んでいます。上でも触れたことですが、第四言の「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」の祈りは、詩編第22篇の冒頭の句で、第22篇の原作者がダビデ王的な人だとすれば、その人物は紀元前千年頃の人物です。そしてそれから千年後にイエス様が十字架上で祈られたのです。そして、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」とも祈られたのです。それから2千年後の今日も、この祈りを「彼ら」のために、否、「我ら」のために祈っていて下さるのです。

◆今、ここで礼拝を捧げている「我ら」も、自分が何をしているのか知らないのではないのでしょうか。一体、わたしたちは、何を、本当に、大事にしているのでしょうか。一体、私たちは、何を究極の価値としているのでしょうか。あの百人隊長は、「本当に、この人は正しい人だった」と言い、また、「本当に、この人は神の子だった」と告白したのです。百人隊長は、主イエスの十字架の様子に畏怖の念を抱いたのです。わたしたちのために、主イエス様は、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と、命を捧げて、執り成しの祈りを捧げていて下さいます。わたしたちは「父よ、我らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と、祈るほかありません。

◆お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様。愚かで、罪深いわたしたちを御赦してください。あなたの御憐れみ、主イエス様の御執り成しがなければ、わたしたちは滅びるほかありません。どうか、自分が何をしているのか知らないわたしたちを御赦してください。主イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。